

2021年1月1日以降の実績

1号機

・1号機使用済燃料プール(以下、「SFP」という。)循環冷却系においては、「1号機使用済燃料プール冷却浄化系電動機取替工事及び同関連除却工事」及び「1F電気設備点検手入工事(2020)」に伴い、1月12日午前0時から2月5日午後11時までの期間、当該設備の運転を停止予定。(一次系)

1～3号機SFP循環冷却系二次系共用設備の電動機点検に伴い、1月12日午前0時から1月14日午後11時までの期間、1～3号機のSFPの冷却を停止予定。(二次系)

各号機の冷却停止期間におけるSFP水温度評価については以下のとおり。

1号機:1月8日午前5時現在のSFP水温度は、20.5℃であり、放熱を考慮し、停止期間終了時点で約37.7℃と評価。

2号機:1月8日午前5時現在のSFP水温度は、19.5℃であり、放熱を考慮し、停止期間終了時点で約22.3℃と評価。

3号機:1月8日午前5時現在のSFP水温度が、15.8℃であり、放熱を考慮し、停止期間終了時点で約18.7℃と評価。

各号機の冷却停止(実績)は以下のとおり。

1号機:1月12日午前6時1分、SFP循環冷却系一次系の運転を停止
冷却停止時のSFP水温度は19.5℃

2号機:1月12日午前7時20分、SFP循環冷却系二次系の運転を停止
冷却停止時のSFP水温度は18.3℃

3号機:1月12日午前7時20分、SFP循環冷却系二次系の運転を停止
冷却停止時のSFP水温度は15.0℃

各号機の冷却開始(実績)は以下のとおり。

2号機:1月14日午後1時53分、SFP循環冷却系二次系の運転を再開
冷却開始後のSFP水温度は19.8℃

3号機:1月14日午後1時53分、SFP循環冷却系二次系の運転を再開
冷却開始後のSFP水温度は15.5℃

・所内共通M/C3Aの改造工事の準備作業として、1号機PCVガス管理設備の電源切替操作を行っていたところ、1月13日午前3時、希ガスモニタ(A)の通信不良が発生し監視不能となった。なお、希ガスについては、希ガスモニタ(B)で監視を継続している。

1月14日、希ガスモニタ(A)の部品交換を終了。その後、当該装置の指示値に異常がないことを確認したことから、同日午後3時48分、監視可能な状態に復帰したものと判断。

2号機

・2号機の原子炉注水設備において、炉心スプレイ系注水配管の点検に伴い、以下のとおり原子炉注水量を変更する。

[原子炉注水量変更実績]

(1月13日午後1時23分)

炉心スプレイ系原子炉注水量 : 1.4 m³/h → 0 m³/h

給水系原子炉注水量 : 1.4 m³/h → 3.0 m³/h

[原子炉注水量変更予定]

(1月22日)

炉心スプレイ系原子炉注水量 : 0 m³/h → 1.5 m³/h

給水系原子炉注水量 : 3.0 m³/h → 1.5 m³/h

3号機

現時点での特記事項なし

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

現時点での特記事項なし

6号機

現時点での特記事項なし

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4、H6エアータンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

・1月10日、午前11時5分、設備休止中の淡水化装置1周辺で、協力企業作業員が水たまりを発見した。

状況は以下のとおり。

- ・漏えい箇所
 - ①急速ろ過装置(A)入口流量計
 - ②急速ろ過装置(B)入口流量計
 - ③ROモジュール出口配管フランジ部
 - ④ROドレン出口逆止弁フランジ部
- ・漏えい範囲 漏えい範囲は全体で、約30m×3m×深さ3cm
- ・拡大防止処置
 - ①流量計前後の弁を「閉」した。
 - ②流量計前後の弁を「閉」した。
 - ③袋にて養生を実施した。
 - ④袋にて養生を実施した。
- ・漏えい継続の有無 上記①～④:すべて漏えい停止している。
- ・外部への影響 堰内にとどまっている。

今後、準備が整い次第、以下の処置を実施する予定。

- ・堰内水の採取・分析
- ・堰内水の回収

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯水タンクJ 1月1日午前10時42分～午後2時31分。排水量569m³
- ・一時貯水タンクK 1月3日午前11時18分～午後2時57分。排水量543m³
- ・一時貯水タンクL 1月5日午前10時46分～午後2時16分。排水量519m³
- ・一時貯水タンクA 1月7日午前10時5分～午後1時21分。排水量483m³
- ・一時貯水タンクC 1月9日午前11時16分～午後2時20分。排水量454m³
- ・一時貯水タンクD 1月11日午前10時31分～午後1時29分。排水量440m³
- ・一時貯水タンクH 1月13日午前10時53分～午後2時10分。排水量489m³
- ・一時貯水タンクJ 1月15日午前10時～午後1時11分。排水量473m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯留タンクグループ3 1月5日午前10時2分～午後5時8分。排水量1,938m³
- ・一時貯留タンクグループ1 1月13日午前10時9分～午後5時12分。排水量1,926m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【窒素封入設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

現時点での特記事項なし

【けが人・体調不良者等】

現時点での特記事項なし

【その他】

・1月8日午前11時24分、旧野鳥の森周辺の電気絶縁油タンクの油面計付近から油が漏えいしていることを協力企業作業員が発見した。

状況は以下のとおり。

- ・漏えい範囲 約1m×2m×1mm
- ・拡大防止処置 堰内に留まっている
- ・漏えい継続の有無 継続中
- ・双葉消防本部への連絡時刻 午前11時43分(119番通報)

漏えい箇所は、電気絶縁油タンクの油面計付近であり、当該油面計の元弁を閉止し、漏えいの停止を確認した。

堰内に漏えいした電気絶縁油については、今後回収し適切に処理を行う。
なお、本件について、午後0時11分に富岡消防署より「危険物漏えい事象」と判断された。